

# ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 238



\*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
(書名の後の () の数字は請求記号です。)

問) 自宅から、「安否問合せ受付票」「毎日新聞」と書かれた書類を発見した。親類の名前と出征年、出征場所が記入してあったが、これはどういう内容で、昭和何年頃のものかを知りたい。

答) 図書室の利用者末端で所蔵検索を行います。

図書→  →  と入力して検索⇒ 61件

この中の、『遺族、復員者、出征者家族の葉』(369.37/T015 閉架一般 000011635)には、p.55「出征者安否調査」という項目があります。

図書→  →  と入力して検索⇒ 139件

『毎日新聞百年史』(070/Ma31 閉架一般 000037195)

『東西南北 毎日新聞殉職社員追憶記』(916/Ma31 閉架一般 000016539)には p.343

「比島、沖縄、太平洋地域未帰還者調査」の項目に以下の様な記述があります。

米軍供給の抑留者名簿は(中略)音順と地域を無視した雑然たる排列となっていた。

従って検索は極めて非効率的であった。(中略)先ず名簿を改編して辞書体名簿とし、

(中略)「比島沖縄太平洋地域未帰還者調査」の事業が社告され、準備期間二週間余の八月十三日、三社一斉に店開きが行われた。(中略)連日早朝より社前に長蛇の列を作った。

※旧仮名遣いを新仮名遣いに改め、旧漢字を新漢字に一部ひらがなに改めた。

この社告の新聞記事検索を行えば、年代が判明します。毎日新聞は昭和25年から縮刷版が発行され、それ以前はマイクロフィルム化されています。国立国会図書館や東京都立図書館で所蔵していますので、そちらをご利用下さい。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



## 戦中・戦後の「身の上相談」

新聞や雑誌をめくると、読者から寄せられた相談に解答者が返答する「身の上相談」の欄を見かけます。最近では新型コロナウイルスの流行をきっかけに、自粛生活の疲れや交友関係のトラブルから悩みや不安を抱える方が増えているそうです。戦中・戦後の雑誌にもさまざまな身の上相談が掲載されています。その一例を紹介します。

『主婦の友』（昭和18年1月発行）では、交際中の男性が出征した女性から結婚に関する悩みが寄せられています。彼が出征した後、他の男性との縁談が持ち掛けられたことで「家中乗気」になり、「心が決まらず、困って」しまったそうです。

解答者は「迷う心はよろしくない」と答えています。「世界に比類なき日本女性と生まれながら、結婚を打算的に考へる米英の婦人のやうな女になることは、<sup>ほんとう</sup>本當に残念」だと縁談に批判的です。そして、「心に決めた<sup>しょうらい</sup>将来の妻が、自分の出征のために他に嫁いでしまったといふやうな<sup>たよ</sup>頼りない<sup>きもち</sup>氣持、ひやゝかな心を前線へ送ることは、<sup>ぜったい</sup>絶対によくないことです」と断言しています。

戦後の『女学生の友』（昭和25年11月発行）の「人生案内」には、「看護婦になるにはどうしたらいいか」という女学生の相談が掲載されています。資格の取得方法とともに「病気で苦しんでいる人や傷ついた人達を、なぐさめ励まし、やさしく看病する、女性にとってふさわしい仕事であります」と助言しています。

『キング』（昭和27年12月発行）では、育ての母との関係に悩む16歳の女子高校生へ次のような言葉を送っています。「同じ家の中のものが、いたわり助け合えばずい分たのしくなるのです。貴女の家庭を明かるくすることは貴女の<sup>き</sup>氣のもち方で<sup>で</sup>出来るように思います。……貴女の環境はきつと、貴女をみがくでしょう。」現代の私たちにも響く言葉ではないでしょうか。

（※文中の引用文は原文のままです。）

### 参考文献

『主婦之友 第27巻第1号（昭和18年1月）』（051/Sh99/27-1 閉架雑誌 100018061）

『女学生の友 第1巻第8号（昭和25年11月）』（051/J61/1-8 閉架雑誌 10032487）

『キング 第28巻第12号（昭和27年12月）』（051/Ki43/28-12 閉架雑誌 100030930）

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 238

2020年10月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1